

COVER INTERVIEW My Purpose 挑戦する人

## 2016年度同志社大学体育会「最優秀部賞(総長杯)」、 「最優秀選手賞(学長杯)」を受賞 さらに今年は射撃部主将として3大会で女子団体優勝を達成



受験の下見で訪ねた高等学校で、鶴飼風音さんは射撃部への入部を促すポスターを目にする。そこに記されていた「誰でも上を目指せる!!」というキャッチフレーズが射撃に興味を抱ききっかけになったという。高校入学後、友人と共に部活見学で射撃部を訪れると、その場でビームライフルの試射を勧められる。初めて手にした銃であったが、見事に真ん中の10点を撃ち抜く。「自分でも驚き、感激しました。入部の決め手になったのは、誰もが高校から同じスタートラインに立って挑めるスポーツだったことです。全国大会で優勝された先輩もおられ、私も本気で頑張れば、その後を追えると思いました」。以来、鶴飼さんは、週末の合宿にも参加し、夏休みも練習に励み、実力を鍛え抜く。その努力は早くも1年後には大きく実を結び、高校2年生の時に第39回全日本ビームライフル射撃競技選手権大会(BRS40W)で優勝の栄冠を手にする。

本学の射撃部の創部は1929年。京田辺キャンパス内に射撃場があり、部員は平日に各自が自主練習を行い、日曜日に全体練習を実施している。鶴飼さんは週平均4~5日、1日約3~4時間、長い日は半日近く練習に打ち込んでいる。全体練習では射撃姿勢がぶれないように体幹トレーニングも重視し、フロントブリッジやサイドブリッジなどの鍛錬も取り入れている。インナーマッスルが強化され、筋肉を正しく動かすために欠かせない姿勢の矯正にも役立ち、効果を実感している。鶴飼さんが練習で最重視しているのは、試合に臨む時のように最大限に集中力を高め、一発一発を大切に撃つこと。逆に本番では「いつもの通りに撃てば、絶対に大丈夫!」と自分に言い聞かせ、練習時と同じ段取り、一連の動きを守るルーティ

ンを大切にしている。「どれだけ平常心を保てるか。自分を完璧にコントロールできるか。非常に難しいことですが、これが勝負の分かれ目になります」。また、ジャケットやズボンなど射撃用の装具はオーダーメイドであり、サイズが変わらないように体重の保持などにも心を配っている。

昨年は第12回日本学生選抜ライフル射撃選手権大会(50m3×20W個人)、第24回西日本女子学生ライフル射撃選手権大会(50m3×20W・10mARS40W・50mP60W・個人3種目)、第22回春季全関西女子学生ライフル射撃選手権大会(10mARS40W個人)で優勝したが、大学生として目指してきた全国大会(日本学生選抜)での勝利が最も印象深く、目標を達成できたことが自信に繋がったという。今年は主将として「Challenge~挑戦の年に」をスローガンに掲げ、目標とした第25回西日本女子学生ライフル射撃選手権大会(女子団体)、第23回春季全関西女子学生ライフル射撃選手権大会(女子総合団体)、第30回全日本学生スポーツ射撃選手権大会(女子総合団体)での団体優勝という快挙を成し遂げる。また、2016年度同志社大学体育会「最優秀部賞(総長杯)」、「最優秀選手賞(学長杯)」の受賞については「最優秀部賞は射撃部の誇りであり、その榮譽に恥じることはないように頑張りたい。最優秀選手賞は本学の学生として最高の記念になりました」と感慨深げに語る。4年次生の鶴飼さんの大学生としての最後の目標は来年の卒業間際に開催される世界大学学生選手権。すでに競技にも深い理解のある地元企業への就職も決まり、社会人になっても現役選手を続ける決意を固めている鶴飼さんは、アジア大会や夏季オリンピックへの出場も視野に入れ、アスリートとしてのさらなる高みを目指している。



う か い か ざ ね  
**鶴飼 風音さん**  
[文化情報学部 4年次生]